

20 宗建 第 276 号

平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

宗像市長 谷井 博美 印



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のあった標記の
件について、別紙のとおり提出します。

広域化に対応した幹線道路の整備

* 国道3号の6車線化

市域の道路交通網は、東西軸が国道3号とその北側を走る旧国道3号及び国道495号によって骨格が形成されており、南北軸は主要地方道若宮玄海線や宗像篠栗線など数路線の県道で形成されています。

自動車の普及によって、人々の生活圏域は市域を越えて拡大しています。また、経済面でも物流など産業活動の広域化が進み、近年、市内においても、交通渋滞が深刻化し、市民生活にも支障がでてきています。

特に、国道3号の光岡交差点周辺を中心とする渋滞は、日増しに悪化してきており、対応策の検討が喫緊の課題と認識しています。このようなことから、北部九州の幹線である国道3号を現在の4車線から6車線化への取り組みをお願いします。

広域合併に向けての道路整備

* 補助金・交付金の拡大

本市は、昭和56年に市制施行し、平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が合併し、平成17年3月に旧大島村と合併が行われました。今では、経済や人の交流など近隣地域との連携だけでなく広域行政にも積極的に取り組んでいます。

また、国や地方においても、道州制の議論が盛んに行われており、国だけでなく市町村のあり方も変革されようとしています。当市も、この道州制に大いに賛同するものです。

このようなことから、道州制を推進するために、地域連携に最も重要であるインフラとして、道路の整備があります。地域を結ぶ連絡道路は整備の遅れが顕著であり、道路整備は急がなければなりません。ここに、道路事業に対する、なお一層の助成をお願いします。

○現状

市域の道路交通網は、東西軸として国道3号とその北側を走る旧国道3号(主要地方道「福岡宗像玄海線」と「宗像玄海線」)および海岸近くを走る国道495号によって骨格が形成されています。一方、南北方向は、主要地方道「宗像篠栗線」から「宗像玄海線」につながる路線と県道「宗像若宮線」から主要地方道「若宮玄海線」につながる路線により連絡されています。

市北部にある大島、地島の2つの離島には、県道「大島循環線」「豊岡泊線」が島の基幹道路として機能しています。また、市道が約4,000路線あり、市民の生活道路としての役割を果たしています。しかし、昭和40年以前の既成市街地や、早期に開発された住宅団地では、幅員が狭い道路であったり、バリアフリーの対応がなされていない状況です。特に、赤間駅、東郷駅周辺の既成市街地の道路整備は遅れています。

市域が広い本市では、JRやバスは、人口密集地区や幹線道路沿線しか運行されていません。そこで、公共施設へのアクセス向上や利便性向上を図るため、平成10年から「ふれあいバス」を市の事業として運行しています。

大島、地島の離島と本土を結ぶ唯一の交通手段である渡船は、日常物資の運搬、通勤通学などに欠かせない生活航路です。近年では観光客増加を目指すため、大島では海洋体験施設の建設や神湊フェリーターミナル整備の事業化を推進しています。

○課題

「財政制約に対応する幹線道路整備の実施」

- ・交通混雑が続く東西方向幹線道路の機能強化や交差点の改善
- ・増加する市外との交通流動に対応する南北方向幹線道路の整備
- ・未整備都市計画道路の必要性確認と道路網の再編

「自動車依存から脱却するための公共交通利用環境の改善」

- ・駅前広場やバス停などの整備
- ・駅周辺を中心とした歩道・自転車通行帯のネットワーク形成

「高齢者トリップの増加に対応する交通環境の改善」

- ・駅周辺の歩行者空間整備とバリアフリー化の推進
- ・路線バスとふれあいバス(市)の運行維持と利用環境の改善

「合併後の地域間連携を促進する交通網の強化」

- ・地域間連携を強化し回遊性を促す、南北方向幹線道路の整備
- ・市内の観光施設・拠点・離島を連携する道路サインの整備

「赤間駅周辺の拠点性強化のための整備」

- ・赤間駅南側への自動車アクセス増加に対応した道路ネットワーク強化
- ・赤間駅北側への徒歩・自転車利用に対しての環境整備

①市街地交通の円滑化

- ・財政的な制約や将来の自動車交通需要を踏まえ、渋滞の解消や市街地における走行速度の向上の為に、自動車の需要に対応した道路網の整備や渋滞箇所への対策を実施する。
- ・鉄道(JR 鹿児島線)南北間の分断を避け、円滑に結ぶネットワークの形成を行う。そのために、渋滞踏切における立体交差化などを推進し、特定路線への集中を避け交通の分散を図る。
- ・自動車による鉄道駅アクセス性を向上させるネットワーク形成を図る。

②分散する市街地間の連絡性強化

- ・宗像地域から玄海地域、大島へと結ぶ連携軸の強化を図る。
- ・分散する市街地間を結ぶ路線の強化を図る。

③広域ネットワークや隣接市等へのアクセス性向上

- ・市街地と国道3号や九州自動車道など広域道路網へのアクセス性向上を図る。
- ・近年増加傾向にある筑豊方面との連絡性強化のために南北軸の強化を図る。

④観光軸の形成

- ・観光ゾーンと広域的な路線(九州自動車道や国道3号等)を結ぶ路線との流動の円滑化を図る。
- ・拠点となる若宮 IC や国道3号、国道495号からの円滑に移動できるルートの整備を促進し、観光ネットワークを形成する。

⑤自転車ネットワークの形成

- ・自動車依存による大幅な増加傾向にある短距離における自動車利用の増加に対し、市街地における渋滞緩和や地球環境への影響軽減のために、徒歩や自転車の活用を推進する。そのために、自転車ネットワークの形成を図り、需要の多いルートにおいて、自転車走行環境を整備する。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福岡県宗像市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・都市交通の快適性、利便性の向上	国道3号の6車線化	交通渋滞のない、交通環境が整備されることで、自動車のスピードアップにより経済のコストダウンに繋がり、排気ガス(CO2)の削減により地球環境に貢献する。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	JR(赤間・東郷)の駅前広場の整備	JR 駅前を整備することで、バスの乗り入れが可能になるほか、歩行者・自転車の利便性が高まる。また、公共空間が確保できることで災害時の非難誘導にも対応できる。	